# 温暖化防止ながれやま便り

第47号　2023年3月



NPO 温暖化防止ながれやま
代表　増永　　弘
流山市西平井2-16-7
編集　吉永　泰祐


## 第４回　市民環境講座
## 「らんま先生の環境エコパフォーマンスショー」

令和５年２月12日(日曜日)、文化会館で第４回市民環境講座「らんま先生の環境エコパフォーマンスショー」が行われました。市民環境講座は、市が市民団体「温暖化防止ながれやま」に委託している事業です。会場では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、講座を実施しました。今回は79組の小学生とその保護者の方が参加しました。

今回は、eco実験パフォーマーである、らんま先生から楽しく地球の環境問題を学びました。表面張力によって、コップの中に入っている水がこぼれない実験や、慣性の法則の実験などが行われました。らんま先生の助手には会場の参加者が選ばれ、一緒に実験やパフォーマンスを行い、大いに盛り上がりました。

今話題となっているSDGs(持続可能な開発目標)の講義もありました。SDGsは、基本理念として誰一人取り残さない17の目標を定めています。らんま先生からは、「異常気象が原因で漁師さんや農家さんの仕事に影響が出て食事が食べられなくなったり、湖が干上がって水をくむために学校に行けなくなったりしている地域があります。その結果、生活が貧しくなり、毎日の食事や生活の場と引き換えにテロリストの集団に入るなどの悪循環に陥る可能性があります」と説明があり、「このような状況を防止し改善するために、さまざまな問題をバランスよく解決していくことが必要です」と話してくれました。

ギネス世界記録に認定されたecoなエネルギーを利用した空気砲も披露され、最後には一人１回ずつ空気砲を打つ体験をしていました。参加した皆さんからは「楽し

くSDGsについて勉強できた」「空気砲がすごい」という感想が多く寄せられました。 参加者の皆さんは、面白い科学実験を通じて、楽しく環境について学ぶことができました。また、帰りには、らんま先生もパフォーマンスで使っていた、捨てても土に還る風船のプレゼントがありました。また、ホワイエには省エネや再生可能エネルギーについてのパネル展示もあり、足を止めてご覧になっているご家族の姿も多く見られました。

# 暮らしのSDGs学習会

**第185回　千葉県における地球温暖化対策の取組**

千葉県会議員　武田　正光

令和5年1月13日には千葉県議会議員の武田義光氏を講師に迎え、第185回暮らしのSDGs学習会として「千葉県における地球温暖化対策の取組」を講演していただきました。

内容は、まず地球温暖化についてとして、温暖化の仕組み、温暖化の現状、世界の二酸化炭素濃度の現状、千葉県の温暖化の状況、地球温暖化対策の世界・国・県の動向について、ご説明頂きました。

続いて、千葉県地球温暖化対策実行計画、千葉県カーボンニュートラル推進方針、千葉県庁エコオフィスプラン、千葉県の地球温暖化対策事業についてご説明頂きました。

最後にこの冬の省エネ、節電のお願いがありました。

第 186 回　子ども食堂について

赤城子ども食堂代表　OBN 会員　大塚香里

2012 年（H24）地域の子どもたちに夕食を低価で提供する「だんだんワンコインこども食堂」が子ども食堂と命名した活動の第 1 号と言われています。それから 10 年で全国の子ども食堂は 7,330 カ所となりました。コロナ禍や物価高を背景に今後も必要性が高まっているようです。

私も 2021 年 11 月から「赤城子ども食堂」を発足し、運営するにあたって様々な団体と関わってきました。

全国的な組織としては「NPO 法人全国こども食堂支援センターむすびえ」があり、各地域の子ども食堂と応援してくれる企業や団体をつなぎ、子ども食堂の意識と実態を伝え理解を広げる調査・研究を行っています。

「とうかつ草の根フードバンク（TKF）」は、千葉県東葛地域 6 市（柏・松戸・流山・我孫子・野田・鎌ヶ谷）の子ども食堂ネットワークを物流ルートとして活用し、こども食堂や地域で必要としている家庭に食品を届けるためのフードバンクです。

流山市内の子ども食堂（18 カ所）で構成している「流山子ども食堂ネットワーク」は、企業からの提供やフードドライブ（家庭で使用せず賞味期限が 1～2 か月以上ある食品を集める）で TKF に集まった食品等を配分してもらい、各子ども食堂で利用しています。

本来ならば廃棄されるような冷凍食品などが、味付けを工夫し手間をかけて調理して美味しいお弁当になり、子ども食堂へご来場者された方々に召し上がっていただいています。

「ドローダウン　地球温暖化を逆転させる 100 の方法」（（㈱）山と渓谷社）という書籍の決策ランキングの 3 位に食品ロス削減があります。1 位（冷媒）と 2 位（風力発電）は国や企業が行うような大規模な取り組みですが、食品ロス削減は個人や家庭で取り組めます。日本の食品ロスは、日本人が毎日お茶碗 1 杯分のご飯を捨てているのに近い量です。

子ども食堂は、子どもの貧困・孤食解消、地域交流の場であるとともに、食事やフードドライブ（食品等の提供）により、少しでも食品ロス削減の場にもなると思います。

# 脱炭素プロジェクト

**脱炭素 PJ**　　２０２３年２月２３日

千葉県登録「家庭の省エネ診断士」平手　彰

１）昼間の電気は余っている？

　すべての物価はコスト（原価）と需給割合（市場）の 2 大要素で決まる。今、ウクライナ戦争で諸物価高騰の根源は、火力発電の主原料天然ガスや LPG の供給不足（＝値上げ）にあるといってよい。

　しかし電気の生産（発電）と消費には時間差がないため、需要の急増時間帯は緊急節電要請があるが、好天の昼間の時間帯は太陽光発電が需要を上回ることがあり、九州電力では送電網使用制限をしたこともある。「L000P でんき」の電気単価は３０分ごとに変動している。すなわち太陽発電の多い昼間は安い電気が使える。

　そこで我々市民はできるだけ晴れの日はその時間帯に家電器具を使うことで需給の安定に寄与できるし、財布にも優しい。具体的には冷暖房、掃除、洗濯、炊飯・炊事、夜間に録画しておいたテレビのコマーシャル抜き鑑賞、電気給湯機の湯沸き上げ等がある。とりわけエコキュートの場合、深夜沸き上げをやめ昼間にすることで夕食前に入浴、湯上りの一盃を楽しむといった「温泉気分」を味わえる。

２）知恵と工夫だけで脱炭素化は着実に進む？

　今世紀中の脱炭素社会に向け、わが国のパリ協定の約束値としての「2030 年に 2013 年度比 46%削減」を掲げ、家庭部門では 66%削減が求められている。筆者は 2013 年度より「千葉県推進委員 CO2 排出量実態調査」勉強会講師を県より受託しているが、下記【図１】のとおり、推進員世帯の実績では順調に推移しているかに見える。

　しかし、お金をかけない「家庭の省エネ」は限界と思われ、今後は EV、屋根発電と家庭用蓄電池の普及がカギになると思われる。【図２】は、わが家のエネルギー源脱炭素推移である。金銭的には元が取れなくとも「目標必達」「率先垂範」「有言実行」は脱炭素 PJ のミッションである。

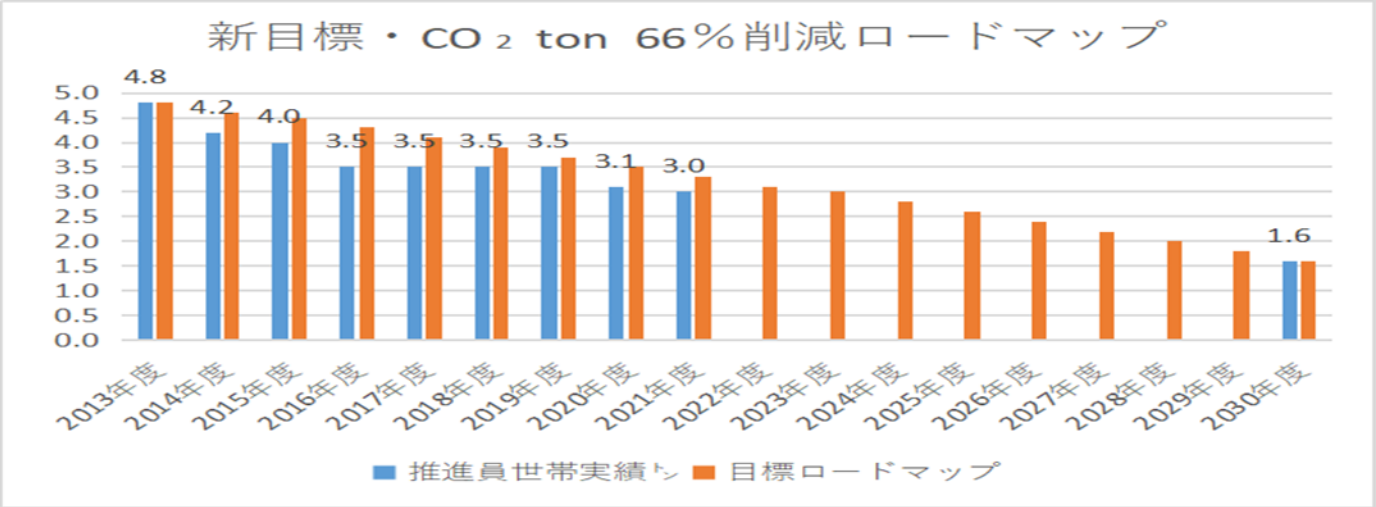


**図１**

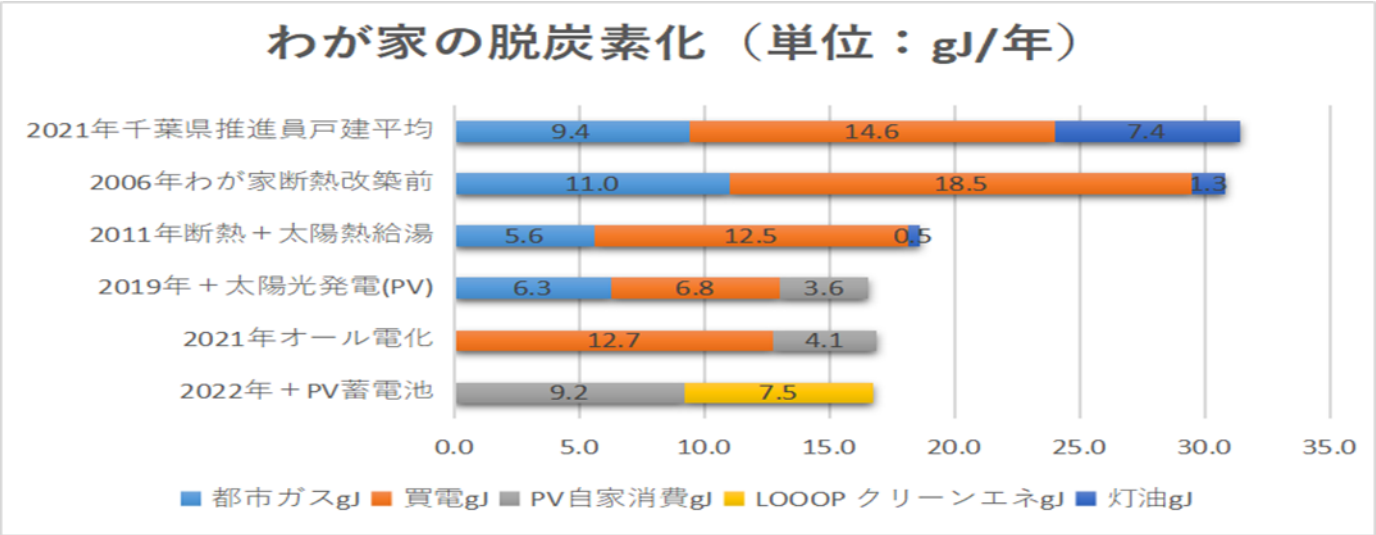


図２

編集後記

　２０２３年４月の４年に一度の統一地方選挙に向けて候補者の皆さんたちはお忙しいようである。

　流山市では市長、県会議員、市会議員とも激戦のようで、皆様素晴らしい実績と今後の政策提案を発表なさっている。その中には脱炭素・地球温暖化対策も盛り込まれている。

　次の市長さん、議員さんには地球環境の危機的な状況への対策を地方から行っていく道筋を示して頂きたいと願っている。

広報担当　吉永泰祐